

牧師室から (2021.9. 5)

ルテニウムをいう物質をご存じだろうか。元素周期表で名前を覚えている方もおられるかもしれない。原子番号 44 番の遷移金属である。おそらく実際に見たり触ったりしたことがある方は巷ではそれほど多くはないであろう。小生はずっと昔にこれを使って実験していたことがある。原料として手に入ったのは、塩化物であり、見た目が黒こげのタール状（名前も見た目も何だか今BSで再放送されている「ウルトラQ」に出てきそうな物質である）であったが、実はこれが金や白金と同じ程度の値段の貴金属なのである。同じ研究室で、原料としてもきれいな金や白金を使っていた友人が少し素敵に見えた。しかし何故このルテニウムは重宝かと言えば、もちろんその希少性もあるが、触媒としての能力が優れて高いのである。

基本的に触媒とは、ある化合物が別の状態になるのに、ある高さの山を越えなければならないとすると、その山の高さを低くしてそちらに行きやすくする働きをするものである。ただ反応前と反応後の生成物は別の物だが、触媒自体は変わらないというのが原理である。

何年前の夏に「説教者のためのセミナー」のお誘いがあり、参加した際に、イエス様が触媒的存在でもあるということに触れた時、それ故にとっても興味をそそられた。

・・・『歴史的イエスは、やはり、神という現実こそが人間の一生において最も重要なものではないか、という問いに我々を直面させる人物』であり、人間を神に引き合わせる『触媒』的存在である』（『神学の小径Ⅲ——創造への問い』芳賀力著）

大雑把に言ってしまうと、人間が神様に引き合わされるにはなかなか障壁があるが、聖書の中のイエス様を通して、私どもは神様に会いやすくさせて頂いている、またイエス様は私どもが父なる神様との出会いが何よりも大切だということ、分かり易くさせて頂いているということであろう。また私どもも、神様を知らぬ者が信仰者となるのに触媒作用として用いられたいと願う。ただその際には、実験室や工場で使われる触媒のように理論的にはそれ自身変化しないのではなく、伝道する者自身もそれを通じて更新されていくものではないだろうか。

(鈴木淳一牧師)